

## 5・17 住民投票

5月17日、大阪市を廃止して5つの特別区に分割する「大阪都構想」の是非を問う住民投票が行われた。写真は16日の日本経済新聞夕刊であり、住民投票を翌日に控え、投票所の設営が始まったとある。

16日朝から投票を呼び掛ける市選管の宣伝カーが中央区など市中心部を走り回った。トラックを用い、荷台部分に「自分のまちのことやから、自分で決めるアカン」と記されたラッピングが通行人の注目を集めた。

住民投票の結果によっては、126年の歴史をもつ大阪市がなくなってしまう。後戻りできない「選挙」であり、国政選挙などより緊張しながら開票状況に注目した。ここまで開票前に書いておいて、続きは早朝に書くことにした。



住民投票の関心は高く、当日有権者数は210万4076人、投票率は66.83%であった。産経新聞などの出口調査で「賛成51.7%」と報じられ、不安な気持ちで21時からの開票を待った。途中は賛成の方が多く、とにかく緊張の連続で開票ニュースを見守った。最終的には下記NHKオンラインのように、「反対」70万5585票、「賛成」69万4844票、1万741票差で反対多数となった。これで「大阪都構想」は廃案となり、大阪市は政令指定都市として存続することになった。



「大阪都構想」について、このレポートでも何回か書いてきた。生煮えの構想に対し、大阪市民がどのような判断を下すかを注視してきた。こうした結果にまずは正直ほっとした。大阪市が存続することだけでなく、改憲などの動きにも大きな影響を与えそうだ。住民投票や「大阪都構想」などについて、今後もじっくりレポートしていきたい。

(2015年5月18日)